

第2回 豊岡市障害者福祉計画策定・推進委員会 議事録要旨

注) 議事録については、発言内容を一言一句正確に整理したものではありません。発言内容をもとに一部表現(文言)を変えて表記している箇所があります。

日時 2020年8月27日(木) 13:30~15:30

会場 豊岡市役所立野庁舎 多目的ホール

出席者 田垣委員、浜上委員、米田委員、中井委員、足立委員、國下委員、
宮下委員、大垣委員、中川委員、中奥委員、久木田委員、岡垣委員、
大江委員、船谷委員、柳委員、松本委員(欠席:小西委員)

1. 開会

2. あいさつ

委員長:

- ・ 事前送付資料がたくさんあり、本日は報告で終始すると思うが、それに対する意見をいただければと思う。

3. 報告事項

(1) アンケート調査結果について(中間報告) 資料1

- 事務局より、資料1に基づき説明。

委員長:

- ・ 今回は中間集計ということであるが、今後は、障害種別による集計をしてもらうことで、それぞれの傾向がわかると思う。

M委員:

- ・ 18歳未満で虐待について回答があるが、これについて市では対策は考えておられるのか。

事務局:

- ・ 今回のアンケートでは回答者を特定できないので、対策は特に考えていない。

M委員:

- ・ 虐待があるという事実に対して何もしないでよいのか。できるだけ調査をして対応を検討する必要があるのではないか。

A委員:

- ・ 調査データの、いわゆる目的外使用になるかもしれないが、極めて生命の危険が及ぶ内容については、(ここであいう)目的外使用であってもデータは使えると思う。目的外使用については、(障害者施策全体の推進のためにデータを活用するという趣旨として)アンケート調査票の依頼文にも記述してもらったと思っている。ただ、アンケートの回答がどこまで確かな情報なのかの判断が難しい、また、回答者が特定できないので難しい面もある。ただ、放置できない問題である

ので、関連部署でも協議されて対応されればと思う。

M委員：

- 確かに虐待のような場合、目的外使用で使えるのではないかと思う。回答から事実認定できないと思うが、何もしないというのはどうかと思う。

副委員長：

- 北但広域療育センターは児童施設であり、コロナで小学校が臨時休校しており、保護者等には電話で話を聞いているが、ストレスが溜まっているという相談もあり対応している。継続して虐待が行われていることを把握している場合は、関係機関と連携しながら対応しており、そのような件数と比較し確認してもよいかと思う。虐待については、保護者もどの程度が虐待なのかどうか分からないなど、程度が理解されていない場合がある。

委員長：

- 18歳未満では、ほとんどは保護者が回答しており、その中で10%の虐待があるという結果が見えているので、計画策定とは別の課題として、調査、検討をしていく必要がある。

A委員：

- アンケート調査結果のトレース（どこの誰のデータか）ができなくても、18歳未満では件数が少ない（障害児アンケート結果では、10%なので14人）ので、他の設問の障害種別、年齢等で、特定できる可能性はある。ただし、その結果をこの委員会に出すということには慎重になる必要があると思う。

委員長：

- アンケートで実態がわかったことで、新たに取り組む内容も出てきたので、進められればと思う。

K委員：

- 回収率が50%以下となっているが、回収率が低い理由にはどういうことが考えられるか。

A委員：

- 福祉関連アンケートでは、回収率50%前後はよくある。障害者福祉では60%、地域福祉では40%台というのが大体の傾向かと思う。アンケートで8割、9割の回収率はなく、例えば、3,000人に配布した場合、半分の回収だと1,500人となるが、すべてを回収した場合との結果のブレをゼロにすることはできない。

K委員：

- 一般論としてはわかるが、回収率を高める工夫はないのか。

委員長：

- 施設にいる当事者にもアンケート調査が届いたが、「回答が難しい。」ということだったので、「このアンケートは回答してもらうことで、豊岡市の障害者福祉が少しでもよくなっていくものだ。」と説明することで回答してもらった。障害の有無と関係なく、回答する人とそうでない人がいるのは確かである。督促もあるのか。

A委員：

- 督促する方法がある。その場合、確かに回答率は向上する。ただ、それには、コストと時間の問題がある。

副委員長：

- アンケートの回答には、障害福祉サービスを利用される本人の理解がかなり必要になる。18歳未満の方が、回収率が低いですが、児童福祉でもガイドラインに沿ってアンケートを実施すると、小学生でサービスを利用する頻度が低いため回収率が低く25%程度であった。家庭では、障害の受容という面で回答されない場合もあり、そういう面でも低くなっているのではないかと。

事務局：

- 回収率の向上については、督促の方法や調査票の依頼文の書き方なども考えられる。また、アンケート調査では、回収率の問題よりも母集団（対象となるすべての人数）に対して、どの程度回答があったかであり、今回の18歳以上では、統計的に意味のある回収数であるが、18歳未満では回収数が少なく、やや集計・分析に難しい面がある。
- ただ、障害者へのアンケート調査は、一般のアンケート調査とは異なり、障害者は一人ひとりが異なった事情があり、アンケート調査で何人や何パーセントが回答しているので、どうかということは、やや馴染まないことかと思っており、このようなことにも配慮して、計画を考えていく必要があると思っている。

委員長：

- 今回は、期間も少なかったので難しかったかと思う。今後のアンケート実施には工夫もしていただきたい。

○委員：

- 18歳未満の回答が少ないのはあると思うが、学校や園を通じて依頼すれば回収率も上がるのではないかと。また、6年前との比較はされるのか。

事務局：

- 今回は中間報告のため、単純集計のみを提示しているが、今後は、障害種別に過年度調査との比較なども行っていく。また、設問間のクロス集計の要望などあれば事務局までお願いしたい。

○委員：

- アンケート結果をみると、豊岡にとって非常に難しい課題を問われていると感じた。問24（14ページ）「地域で生活するために必要な支援」では、「地域住民等の理解と見守り」が31.1%で3番目に高くなっている。これに対して、問37（24ページ）「ここ数年間で障害や障害のある人に対する地域の理解が深まったか」では、「あまり深まっていない」「深まっていない」「わからない」の合計が65%を占めており、なるほどそうかと思った。
- 自分が40代、50代のころは、生徒会、子ども会、婦人会、老人会、中年会などの組織が活発に動いていたが、現状では、子どもがいないので、生徒会や子ども会が成立していない、婦人会、中年会などはあっても解散してしまっているところもある。自分のことで精いっぱい他人のことを構っておられないというような結果が出ていると思う。区長会でこういうテーマも議論すべきだと思っており、少子高齢化、地域防災も含めて、地域の活性化という大きな課題をいただいた。

委員長：

- 問42（26ページ）「地域（地区）とどのような関わりがありますか」でも、障害のある方や、その家族で関わりができていないという結果も出ており、地域の理解や地域との関わりなどについても今後、検討していきたい。

(2) グループインタビュー結果について（報告） 資料2

- 事務局より、資料2に基づき説明。

委員長：

- 委員の方にはグループインタビューに参加いただいたが、質問、意見をいただきたい。

C委員：

- グループインタビューに出席してほしいという案内をいただいたが、正直なところ、自分が出席して何をすればよいか悩んだ。委員長と別の会で一緒になって内容が聞けたので、結果的には出席したが、出席依頼の案内には趣旨などの内容の記載をお願いしたい。

委員長：

- 前回会議の時に、この件を説明しておけばよかったと反省している。それぞれの立場で委員会に参加していただいておりますのでグループインタビューを聞いてもらえればと思っている。障害計画ではあるが、豊岡をいかによくしていくか、今の生活をいかに充実していくかということが目標で、それは誰にとっても暮らしやすい豊岡であり、豊岡が充実した都市になることが理想だと思っている。グループインタビューにはいずれも複数の委員の参加があった。共通した思いや課題があったと思う。グループインタビューで本人からの生の声を聞いたということで計画に反映していければと思っている。

(3) 現行の障害者計画施策事業の検証について 資料3

- 事務局より、資料3に基づき説明。

委員長：

- たくさんの情報をまとめていただいている。こういう取組を進められており、課題も見えてきており、それらを計画にどのように反映していくかということになる。

(4) 第5期障害福祉計画及び第1期障害児福祉計画の成果目標等の進捗状況について 資料4

- 事務局より、資料4に基づき説明。

N委員：

- 障害福祉計画の数値目標が、いつまでたっても達成できない目標や、利用者のニーズがあるがサービスがないので提供されていないものがあり、それらの整理が必要ではないか。ニーズがあるが提供側の理由で提供できていないサービスについてはピックアップして、障害福祉計画に掲載してはどうか。施設からの地域への移行では、グループホームの要件が厳しくなっていることもあり、思ったほど進まなくなっているが、そのままでよいかということなども同様である。
- 障害福祉計画で面白くないのは、数字合わせだけをして、何回計画しても駄目なものは駄目というところであり、それをクリアしていく必要がある。委員の皆さま

んからもそれを指摘してもらいたい。会議の中で、そのようなことを進めるかどうか、あるいは、市としても本当は必要だが、施設ができていないという部分もあり、そういうことも含めて、これからでよいので焦点化して進めてもらえればと思う。そうすれば事業もしやすいし、基盤ができて来期にはみんな喜んで計画になるのではないかと思う。それらをピックアップして補助にも乗せてもらえればと思う。

委員長：

- 同感である。数値に振り回されるのもよくないし、目標値の設定の根拠は何かという疑問もある。

A委員：

- 数値は、県から市町村にフォーマットが出てくるので、それに基づいて算出されるが、それに市の思いを加味すればどうかと思っている。例えば、アンケートでは、サービスを利用していない人が多いが、支援区分を受けていないか、受けていても1か2程度の場合、(サービスを)あまり使わないことがある。これは(会議の議論内容は)委員からすると切実だが、実際の(サービス)利用はないという結果になっている。これについては、例えば、障害支援区分を受けている人たちを抽出して、利用率が少ない場合について議論をすればどうか。そのための基準となる数値を出す必要がある。また、数値化できない部分もあるので、それも含めた上で計画に反映していくべきではないか。
- また、福祉計画(基本計画)をつくるので、サービスを使っていないのはなぜかということも重要であり、豊岡市では合併後に、サービスを使っていない人へのアンケートを行っており、その時のデータも対象にしてはどうか。

委員長：

- 活かせる計画ができるように頑張っていきたい。

4. 協議事項

(1) 豊岡市障害者福祉計画の構成案について 資料5

- 事務局より、資料5に基づき説明。

N委員：

- 障害者雇用について、いろんな公的機関で数値をクリアするために努力されてきたが、障害者雇用の状況は変わってきている。特に、精神障害者では、サービスを使っていないが就労に結びついている事例もある一方で、いざ雇用すると雇用者側がどうしていいかわからない状況がある。アンケートでも発達障害の比率が高いことから、過剰診断の問題もあるが、そういうニーズも変化してきており、就労機会があるのに就労できていないことなどへの対応も変わってきている。超短時間雇用もこの計画にしっかり組み込んでほしい。
- 前回と変わらないという計画ではなく、障害者雇用でも努力はされているので、部分的でもよいので、新たな内容を盛り込めないものかと思う。ニーズにあった計画になっていると思ってもらうような内容にできないものか。そういう構成を考えてほしい。

委員長：

- 事業進捗の説明でも就労の内容があつたが、残念ながらコロナのこともあり、い

い成果が難しいところはある。ニーズも社会も変わってきているので、そういうことも表に出して検討していただきたい。

A委員：

- 計画の背景については、分かりやすくしていただいて、良かった。計画では、確かに、きらりと光ることを書けばどうか。新しく、国際観光芸術専門職大学（仮称）ができるが、そこでの短時間雇用が一定程度あるのであれば記載をすればどうか。計画の年度と大学の最初の4年次が合致しないが、それらを見つつ、今この時期に書き込んでおくも仕掛けとしてもよいのではないか。
- コロナ関連については、障害の方にとって、生活がなお一層厳しくなっている場合もあるが、逆に、発達障害の方などは、人と接することを少なくしてオンラインで学習ややり取りができるというメリットがある。新しい生活様式に伴って、障害の方の生活のあり方を新しく書き込むことがあってもよいのではないか。障害者基本法にも（障害が）社会環境に依拠する趣旨が書いてあり、ポストコロナについて記載してもよいのではないか。また、他にも豊岡市としてこれだけは実施しているという内容を記載すればどうか。

5. その他

事務局：

- 次回委員会、10月12日（月）13:30から。会場は、豊岡健康福祉センター3階

6. 閉会

副委員長：

- 本日の協議内容を次回にも議論できると思うので次回も出席をお願いします。